

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0172900532		
法人名	特定非営利活動法人 こうえい会		
事業所名	グループホーム こうえい館		
所在地	北海道旭川市豊岡8条8丁目1番3号 (電話) 0166-35-9877		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年4月23日

【情報提供票より】(平成21年3月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤	人, 常勤換算 4.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ銅板葺 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	17,000~22,000 円
敷 金	<u>有</u> (50,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / <u>無</u>
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,350 円		

(4) 利用者の概要(3月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名	
要介護3	3 名	要介護4	1 名	
要介護5		要支援2		
年齢	平均 80.2 歳	最低	60 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国本病院 忠和クリニック 橋爪クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは民家を改造して既存の造りを活かし随所に工夫が見られ、運営者自らが手作りでその人に合った手すりやベットの介助バーを取り付けるなど温かみの感じるホームとなっています。アガペとスキルを基本理念として「ありのままを知り受け入れる」「その人らしく生きる」「喜びの実現」を日々、実践に向けて取り組んでいます。運営者は管理者、職員が必要な外部の研修に積極的に参加できるように取り組んでおり、ホーム内での研修報告会も開催し、研修内容を職員間で共有しています。また、ホームでは全職員で研修会やリーダーへのコーチングの実践研修などを実施して、段階に応じた研修が出来るように取り組んでいます。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では引継ぎの方法やファイルのまとめ方の工夫などが挙げられていましたが、利用者全員の体調が管理されている記録や状態が確認できる送りがなされており改善されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は職員全員で相談して、その内容を管理者がまとめて作成しています。また、外部評価については、実施する意義を十分理解し、前回の評価を活かして具体的な改善に取り組んでいます。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	2ヵ月毎に実施されており、メンバーは利用者、家族、町内会長、包括支援センターの職員、知見を有する人、民生委員及び管理者・職員で構成され、防火防災、避難訓練の取り組み方や認知症ケアについての感想や意見を貰いサービス向上に活かしています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	毎月の「こうえい館便り」にて、全体的な行事や生活の様子を現金出納帳のコピーを添付して送付しており、面会時にも日々の出来事、認知症状を含めた健康状態や暮らしぶりを報告し、体調不良の変化がある場合は随時、相談しています。年1回の家族会の総会や運営推進会議で外部の方や家族同士の意見交換ができるように取り組みそれらを運営に反映させています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会の役職に就いて、役割を担っており、町内清掃や廃品回収などの町内会の活動に積極的に参加しています。また、地域の盆踊りなどの行事や小中学校の運動会等の行事にも参加し、中学生の職場体験を受け入れるなど、地域との交流が図られています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者は、アガペとスキル、「ありのままを知り受け入れる」「その人らしく生きる」「喜びの実現」を基本理念として、近隣の小中学校の行事や散歩などで地域の人々との交流を通じて地域密着性を図り理念として取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者、全職員は理念を共有し、勉強会や介護計画を立てる際も、理解を深めるように話し合い、理念に基づいたケアがなされているかを振り返る機会を作り、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の役職に就いて、役割を担っており、町内清掃や廃品回収などの町内会の活動に積極的に参加している。また、地域の盆踊りなどの行事や小中学校の運動会等の行事にも参加し、中学生の職場体験を受け入れるなど、地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で相談し、その内容を管理者がまとめて作成している。外部評価については、実施する意義を十分理解し、前回の評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に実施されており、メンバーは利用者、家族、町内会長、包括支援センターの職員、知見を有する人、民生委員及び管理者・職員で構成され、防火防災、避難訓練の取り組み方や認知症ケアについての感想や意見を貰いサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、市との協働関係を重視し、担当者と気軽に相談や情報交換できる関係を築いている。市から受けた集団指導での指摘については、毎月の勉強会・カンファレンスで話し合い、具体的な改善に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「こうえい館便り」にて、全体的な行事や生活の様子をお小遣いの現金出納帳のコピーを添付して送付しており、面会時にも日々の出来事、認知症状を含めた健康状態や暮らしぶりを報告し、体調不良や怪我がある場合は随時、連絡や相談をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頻繁に来訪される家族には、意見や不満、苦情を言って貰いやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、年1回の家族会の総会や運営推進会議で外部の方や家族同士の意見交換ができるよう取り組みそれらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間や法人内の異動を極力控え、新任の職員には管理者が助言や相談しやすいように声を掛けるなどして、早く馴染んでもらえるように取り組んでいる。また、人的環境の変化に敏感で不安になりがちな利用者への配慮を特に気をつけて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者、職員が必要な外部の研修に積極的に参加できるように取り組んでおり、ホーム内での研修報告会を開催し、研修内容を職員間で共有している。また、ホームでは全職員で研修会やリーダーへのコーチングの実践研修を実施して、段階に応じた研修や勉強会に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での研修や勉強会での交流の他、地域包括支援センター主催の事例検討会や交流会などにも積極的に参加しサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症の状態によっては本人の納得の無いままサービスを利用する場合もあるが、「ありのままを知り受け入れる」ことを目指したグループホームであり、馴染みの関係や安心感を持って貰えるようにケアの工夫をしており、利用者がホームの雰囲気に馴染めるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの生活歴を踏まえ、利用者と共に庭仕事や家事、生活全般において助け合い、協力しながら支援している。日常生活の中から本人の現在の気持ちを知ることが出来るように心掛け本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人からホームでどのように生活を送りたいのかを聴取している。また、希望や意向を表せない方については、表情やしぐさ等から推察により把握に努めており、日常生活での会話や行動から探り本人本位の生活が送れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日常生活の様子から課題や問題点を見つけ出し、毎月のカンファレンスで職員から多くの意見を出してもらいながら介護計画を作成している。また、日頃より家族と連携を取りながら、本人・家族に意見や要望を出してもらい介護計画に反映させるように心掛けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員が中心となって、3ヵ月に一度介護計画が見直されている。また、日常の様子や会話の中で状態の変化を捉え、本人や家族と相談しながら随時、見直しを行い、現状に即した介護計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、受診の送迎や気分転換に近隣の観光地へのドライブ、大型店への買い物などの外出を柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医になるべく受診できるように支援している。連携している医療機関の看護師との関わりで利用者の体調の維持管理をされており、本人及び家族の要望に応じて状態変化時についても往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期における対応について、かかりつけ医や看護師と共に繰り返し話し合い、支援の方法など共通の認識が持たれるように取り組み、ご家族やご本人の希望を中心に考え、職員間で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重して声かけを行っており、利用者の失敗や失行を他の利用者に気づかれないように素早い対応をしている。記録については、インシタルで記載し、記録等の管理も決められた場所で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調、希望に合わせて除雪や氷割り、花壇や畑の作業など見守りしながら支援している。買い物や散歩、外食やドライブに行くなどの外出の支援、食事の準備やレクリエーション参加など、本人の希望やペースに沿って柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、栄養士の免許を持つ職員が食材品目を多く取り入れ栄養のバランスを考えて提供しており、時には、利用者から食べたい物を聞いて買い出しの段階から関わって貰い、食事が楽しみなものになるように対応しており台所に立ち料理をする方や配膳下膳、食器拭きなど力量に応じて柔軟に支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的には週2回となっているが利用者の状況や希望により柔軟に対応されている。また、ゆっくりと入浴ができるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式で一人ひとりの生活歴が把握され、冬場には除雪や氷割り、夏は花壇や畑の作業、ホーム内では雑巾縫いなどの手指作業など、出来る事を希望に添って支援している。また、七夕飾りやはり絵や名前のプレート作りなど楽しみごとになるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に添って、散歩や買い物などの支援をしている。また、意思表示が困難な方も、表情や健康状態、行動を見極めながら外出の支援をしている。行事での観光地へのドライブの他に利用者の気分や天候、状況に合わせて外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の外出傾向も職員間で把握され、雪かきなどで戸外に出る時は、職員も一緒に行動し安全面で配慮されており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	防火管理責任者を配置され、年2回利用者とともに避難訓練を実施している。また、管理者が災害時高齢者生活支援講習を受講し、防火、防災の対応について取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや食べたい物を勘案して栄養士の資格を持つ職員が多くの食材品目を使い、食事形態にも工夫された支援がされている。また、食事・水分摂取量において確認し記録もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には気になる音や光は感じられず、壁には童謡の歌詞や利用者の作品の刺し子などを掲示し、正月、節句、クリスマス等の飾りつけをして季節感を感じられるように工夫がされている。また、食堂や居間も家庭的な空間で入居者それぞれがくつろがれるようにイスが配置され、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や家族の写真を持参されたり、使い慣れたタンスやベットが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、備え付けのストーブが合わない時は他のストーブに交換するなど臨機応変に対応している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。